

三井金属鉱業株式会社（5706）

2018年3月期

決算説明会

2018年 5月 14日

■業績推移

マテリアルの知恵を活かす

	2015年 実績	2016年 実績	2017年 実績	2018年 見込	16中計 2018年
売上	4,506億円	4,363億円	5,192億円	5,220億円	5,000億円
営業利益	111億円	385億円	495億円	440億円	300億円
経常利益	△113億円	310億円	112億円	410億円	350億円
親会社株主に 帰属する当期純利益	△209億円	187億円	△7億円	260億円	240億円
フリーキャッシュ フロー ※(3カ年合計)	240億円	△141億円	120億円	246億円 (225億円)	- (80億円)
設備投資 ※(3カ年合計)	284億円	377億円	405億円	422億円 (1,204億円)	- (1,100億円)
自己資本比率	35.0%	33.5%	32.2%	36.2%	37%
NetDEレシオ	1.03	1.10	1.11	0.88	0.9

※2016-18年の3カ年合計

■ 17年度決算および18年度通期見込

マテリアルの知恵を活かす

● 17年度 売上・経常利益 対前年同期

(単位：億円)

	17年度決算		16年度決算		差異	
	売上	経常利益	売上	経常利益	売上	経常利益
機能材料	1,672	306	1,458	159	214	147
金属	1,865	55	1,396	85	469	△29
自動車部品	1,020	55	1,132	62	△112	△7
関連	1,327	68	1,135	57	193	12
その他調整	△693	△373	△758	△52	65	△320
合計	5,192	112	4,363	310	829	△198

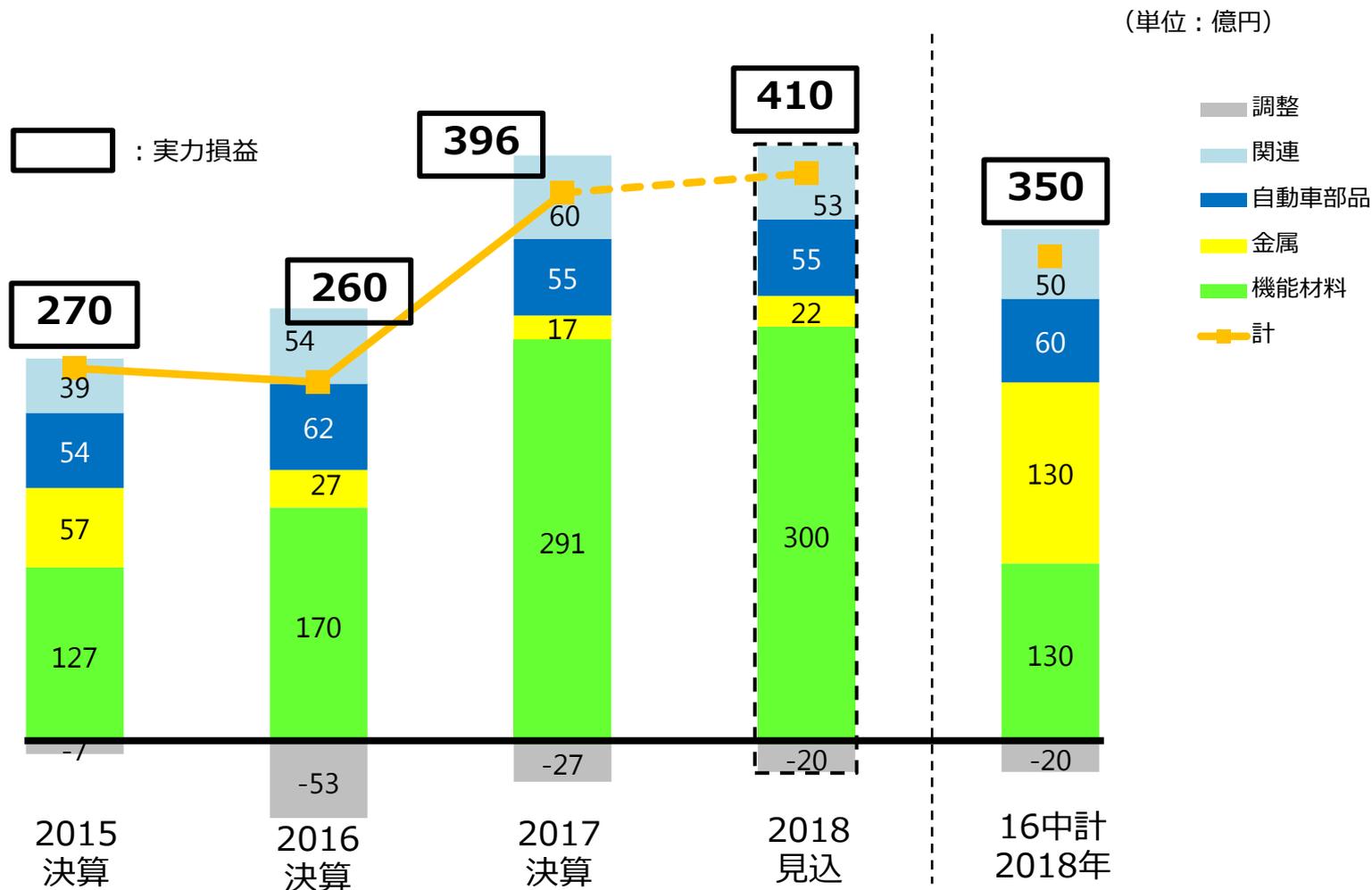
● 18年度見込 売上・経常利益 対前年同期

(単位：億円)

	18年度見込		17年度決算		差異	
	売上	経常利益	売上	経常利益	売上	経常利益
機能材料	1,800	300	1,672	306	128	△6
金属	1,810	22	1,865	55	△55	△33
自動車部品	990	55	1,020	55	△30	0
関連	1,260	53	1,327	68	△67	△15
その他調整	△640	△20	△693	△373	53	353
合計	5,220	410	5,192	112	28	298

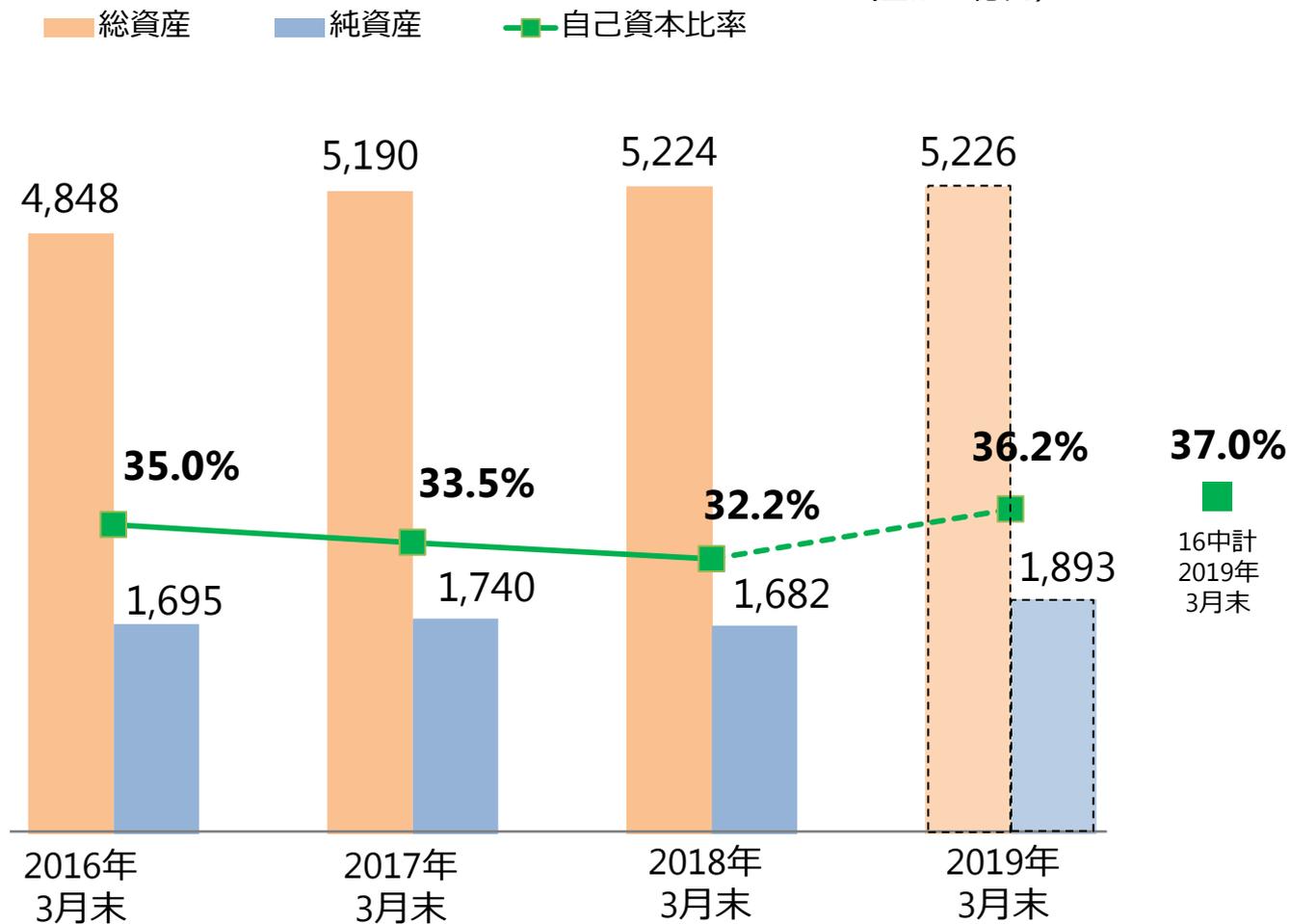
● 実力損益推移

(在庫要因、カセロネス減損除く)



● 自己資本比率推移

(金額：億円)



● 配当方針

- ・ 連結配当性向20%程度を目処に利益を還元する一方、業績に関わらず継続的かつ安定的な配当を行うことを重視し、DOE (株主資本配当率) 2.5%を目処に配当を行うこととする
- ・ 2019年3月期から適用とする

● 2019年3月期の1株当たり配当予想

	第2四半期	期末	年間
2018年3月期	0円	70円	70円
2019年3月期	0円	90円	90円

※ 経営基盤の強化および財務体質改善の進捗に応じて、株主還元方針の見直しを実施していく

■ 中計 主な進捗状況 – 機能材料セグメント

マテリアルの知恵を活かす

	16中計の アクション	結果	今後の取組み	備考
銅箔	MicroThin™増販	月産3,900km2まで 増産起業決定。	更なる増産可否 検討	P8, 9 参照
触媒	四輪向け触媒 拡販	計画通り 増産起業実施	新規顧客受注	P10 参照
	二輪向け触媒 シェア維持	16中計以上に拡販	引続き高シェア維持	
機能粉	SAWフィルター向け 酸化タンタル増販	増産起業実施も 足元在庫調整中	市場回復の見極め	
薄膜材料	ITOターゲット 増販	16中計以上に拡販	中国市場のシェア 確保	
研究開発	成長商品・ 成長事業の創出	①全固体電池向け 固体電解質 開発順調に進捗	①量産に向けた 取組み開始 → 2022年以降の早期 実用化へ	
		②微細回路形成材料 HRDPプレスリリース 2018. 1.25	②量産技術確立。 採用に向けた 顧客との協働。	P11 参照

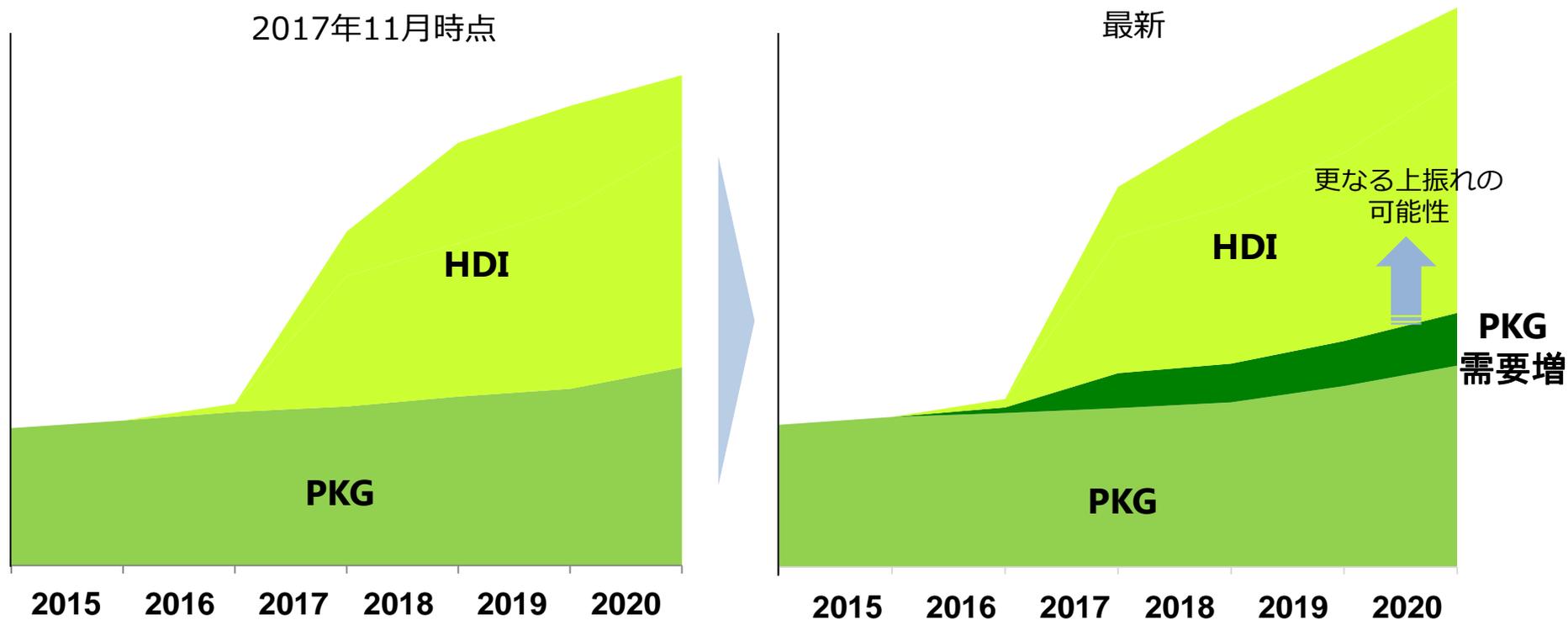
16中計で織り込んでいなかった増産起業や成長戦略を実施中

事業部	中計期間中の主な取組み	プレスリリース
銅箔	※ ・HDI向けMicroThin™第二弾、第三弾増産起業 ・フレキシブル基板用電解銅箔増産起業 ・高周波基板用電解銅箔増産起業	・ 2017. 5.15 / 2017.11.14 ・ 2017. 7.13 ・ 2017. 7.20
機能粉	・酸化セリウム系研磨材（MIREK™）増産起業 ・積層セラミックコンデンサ向け銅粉 増産起業	・ 2017. 9.14 ・ 2018. 2. 1
成長戦略	・SBIインベストメント(株)とプライベートファンドを設立 ・プライベートファンドの第一号案件成立	・ 2017. 9. 1 ・ 2017.11. 7

※HDI : High Density Interconnect (高密度実装配線基板)

2017年11月時点の需要予測に、更に非スマホ系のパッケージ基板（PKG）の需要増加を織り込む

MicroThin™の需要予測（2017年11月時点および最新見通し）

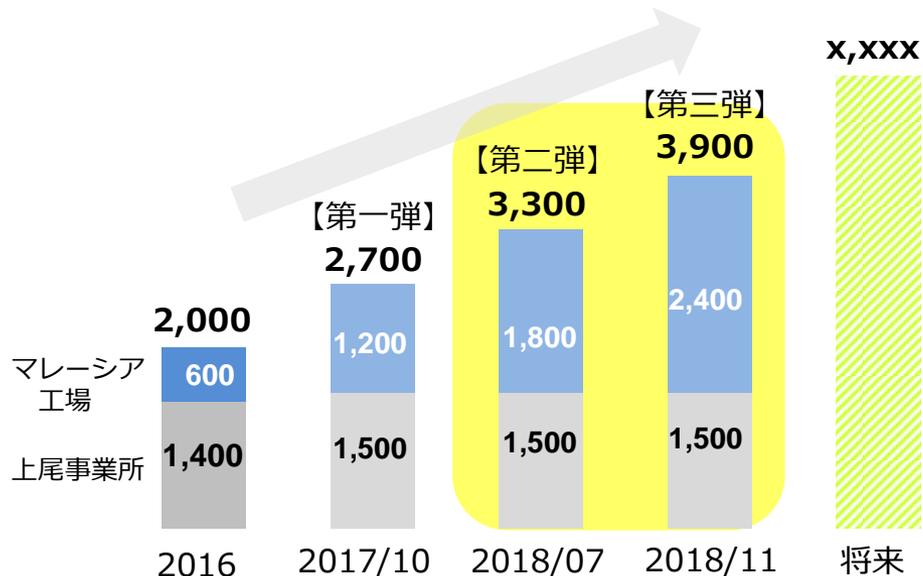


- 従来の需要に加え非スマホ系PKG（外部メモリー、[※]GPU等）の需要が2017年から顕著に増加、その成長は年率10%強。

⇒ MicroThin™の新たな需要が見込まれる

※GPU : Graphics Processing Unit
(画像処理用演算装置)

MicroThin™の生産能力（千m²/月）

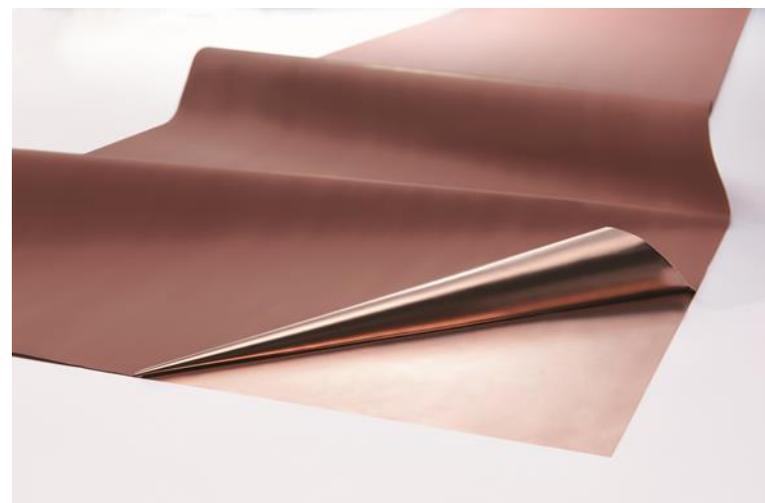


- 今年度に予定している増産起業は計画通り実施予定。
- HDI向け、PKG向け需要増に合わせ、生産能力増強のタイミングを精査中。

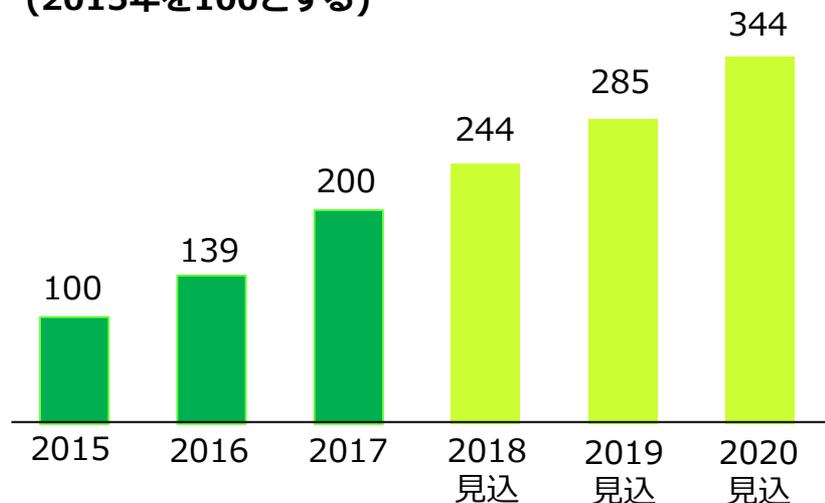
MicroThin™拡販の取組み

- HDI向け：ミドルエンドの採用増を促進
- PKG向け：非スマホ需要を取り込む
(外部メモリー、AI技術に関連するGPUなど)

当社の極薄銅箔 MicroThin™



四輪向け触媒販売見込み
(2015年を100とする)



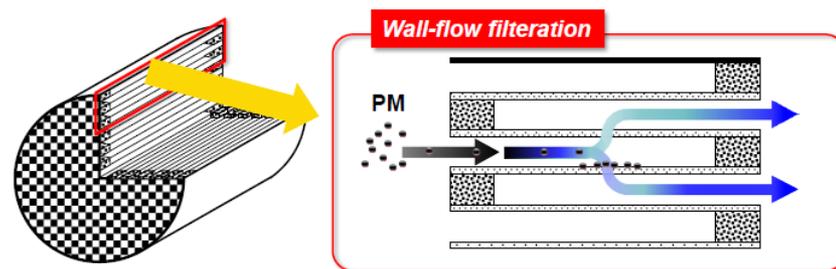
- 四輪向け販売量は採用車種の堅調な販売、並びに採用拡大に伴い増加中。
- 生産能力の増強は中計通り進捗。堅調な販売見込みを受けて、更なる生産能力増強を検討開始。

四輪触媒生産能力増強の進捗

拠点	状況 (● : 完了)	
	設備設置	量産
神岡 (日本)	●	●
MKCA (アメリカ)	●	●
MKCI (インド)	●	準備中
MKCZ (中国)	●	●
MKCJ (インドネシア)	●	●

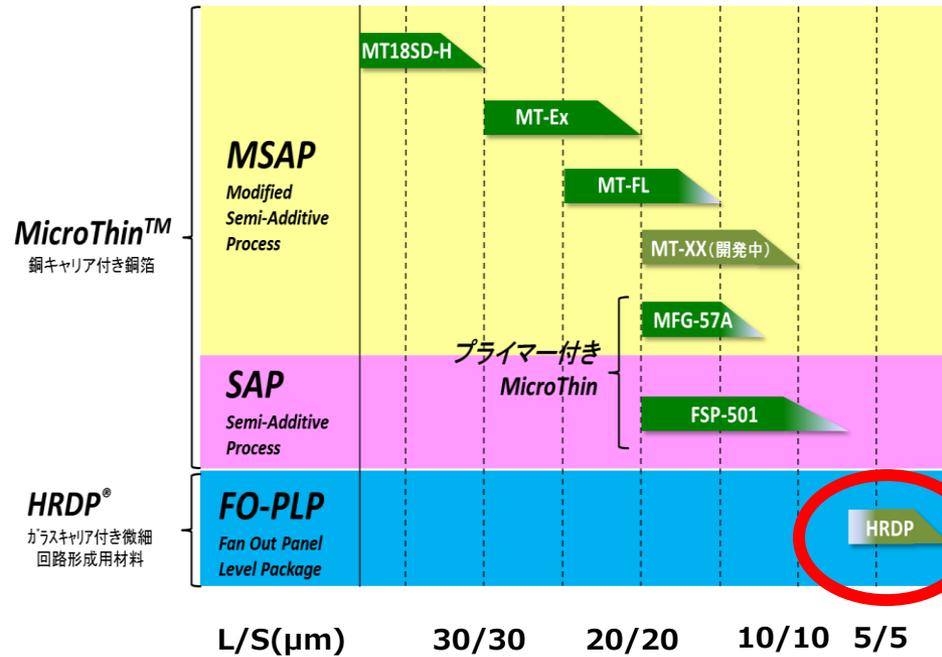
新触媒 (GPF触媒) 開発

- ガソリン車のPN (Particulate Number)
※ 規制値の強化に対応したGPF触媒開発を本格化 (GPF・・・Gasoline Particulate Filter)



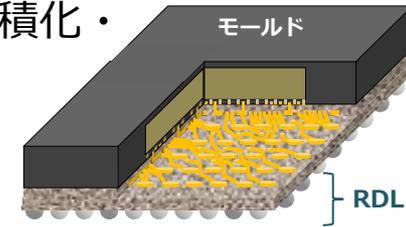
※PM (Particulate matter : 粒子状物質) の数の規制

回路微細化に向けたロードマップ



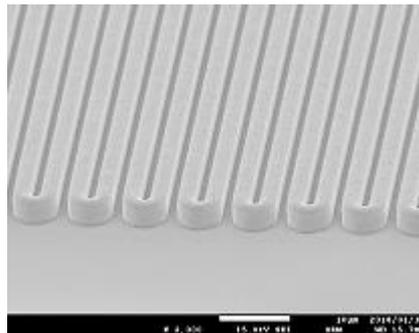
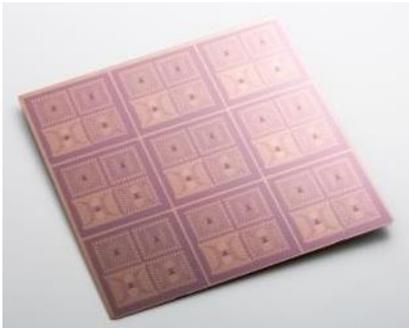
HRDP®で出来ること

- 配線幅・間隔 (L/S) の微細化
 $L/S = 5/5\mu\text{m}$ 以下
 (MicroThin™では実現不可能領域)
- パッケージ基板の小面積化・低背化



HRDP®

当社顧客による
細配線層を形成したデモ基板 L/S=2/2μmが形成可能



開発状況

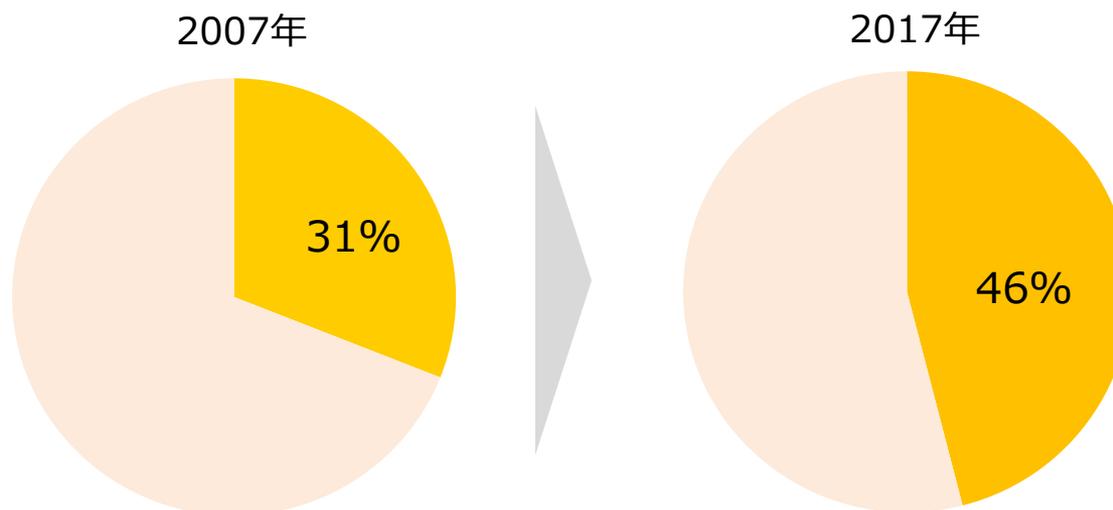
- ジオマテック社との共創・協業により量産化技術を確立
- 複数顧客が評価中。将来の採用に繋げていく

■ 中計 主な進捗状況 - 金属セグメント

	16中計のアクション	結果	今後の取組み	備考
金属	リサイクル製錬 深化	リサイクル原料処理 量を徐々に増やして きた	製錬プロセス開発 を加速する	P13参照
銅統括	カセロネス銅鉱山 操業改善	操業は改善途上	操業の安定化、 コストダウン推進	P14 参照

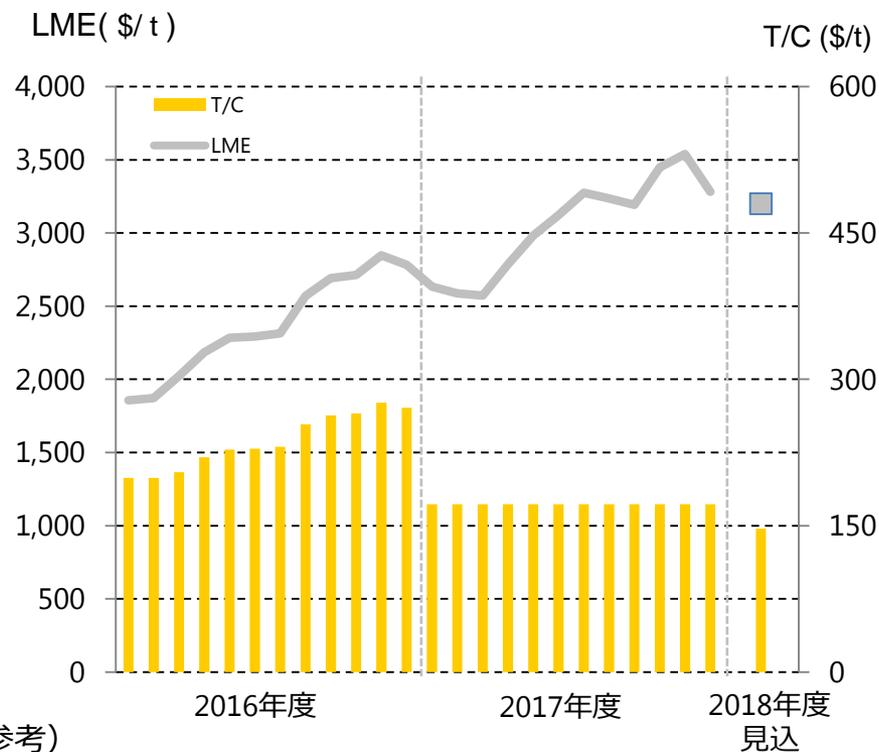
(ご参考) 亜鉛系リサイクル原料処理比率

■ リサイクル原料



亜鉛価格は上昇するも、製錬側のマージンであるT/Cは悪化。
リサイクル原料処理量は徐々に増加。

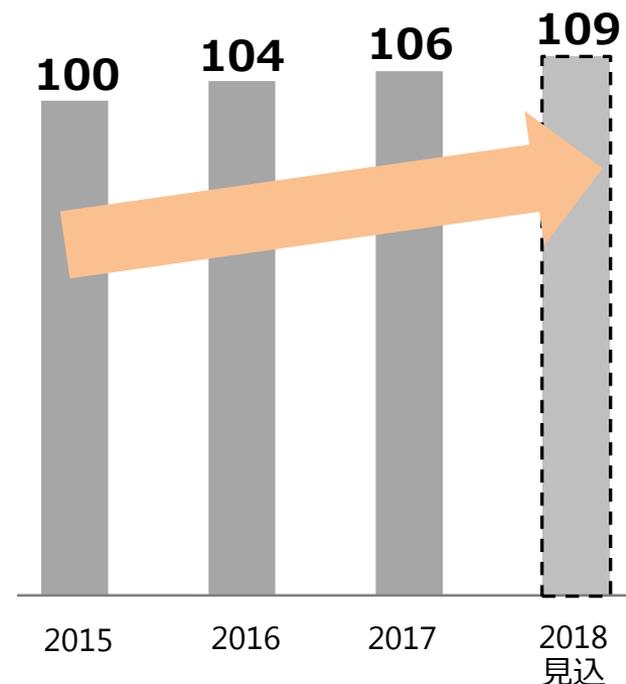
● 亜鉛価格とT/Cの推移



(ご参考)

T/C	203\$/t	172\$/t	147\$/t
Benchmark	(2,000\$/t)	(-)	(-)

● リサイクル原料処理量の拡大 (2015年度を100とした場合)

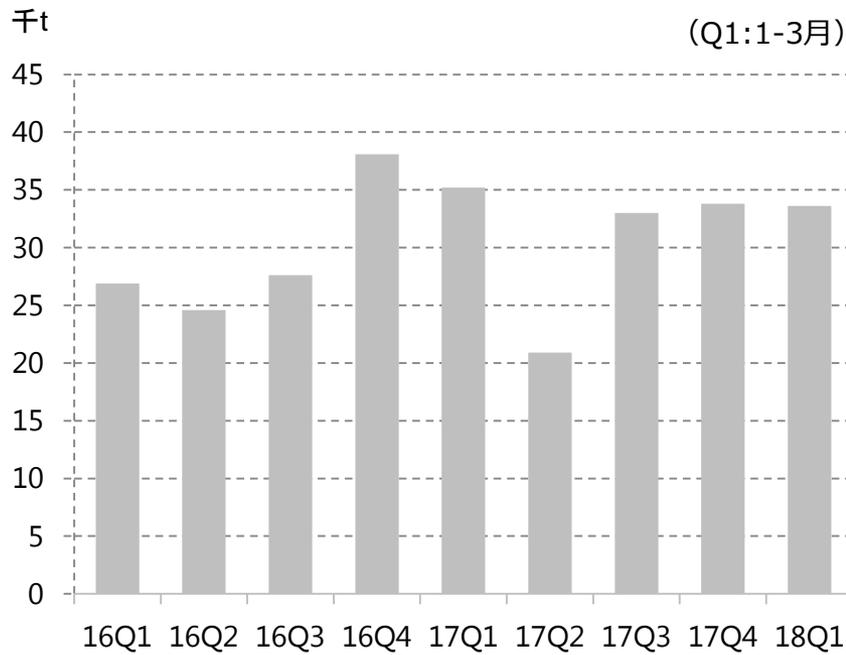


■ 金属セグメント - 銅統括事業部 (カセロネス銅鉱山)

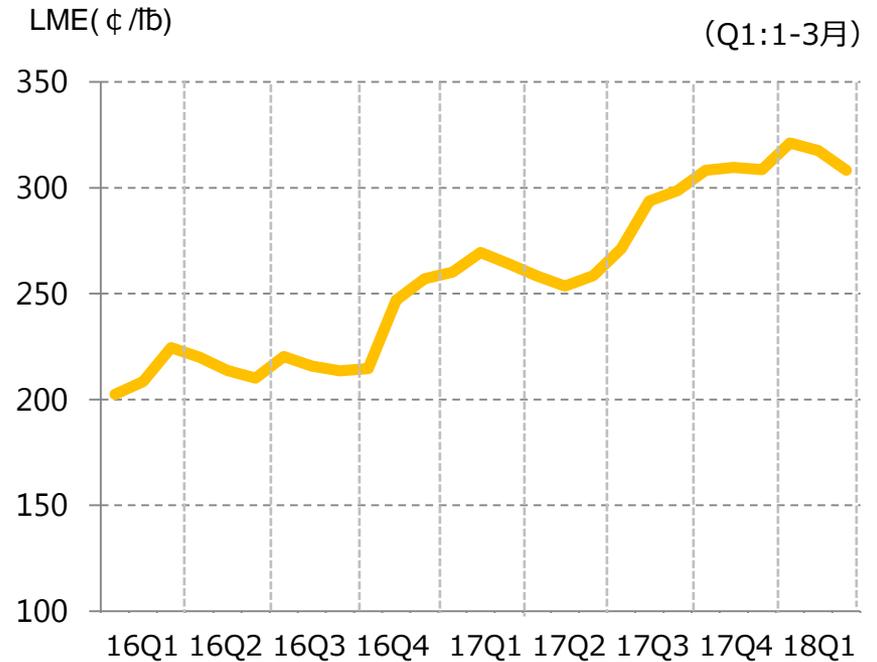
マテリアルの知恵を活かす

昨年5月の暴風と大雪による操業停止で17Q2生産量は低下も、その後操業は回復。更なる操業改善による生産量増加を目指す。

● 銅純分ベース生産量推移



● 銅価格推移 (2016年1月-2018年3月)



■ 中計 主な進捗状況 – 自動車部品セグメント

16中計のアクション	結果	今後の取組み	備考
グローバル拡販	中国・欧米市場で戦略製品の拡販取組中	海外拠点での非日系顧客取込みによる売上拡大	P16 参照
内製化・自動化推進	コスト競争力向上	品質優位でリードタイム短縮、効率化により競争力創出	
域内完結型供給体制構築	国内拠点の競争力強化（マザー工場化を推進）	自動化推進による生産性向上、量産管理技術の構築による品質安定化	

進捗は概ね計画通り。製品軸でのコスト競争力と品質優位をベースとした拡販に取り組み、19年以降の売上拡大につなげる

サイドドアラッチ（例）



三井金属アクトの国内拠点：九州工場



2019年度以降の受注に向けた拡販活動 (中国・欧米市場への取り組みと成果)

- 米国：受注獲得に向けた拡販取り組み中
- 中国：中国民族系への拡販注力中
- 欧州：欧州ビジネスユニット設立

16中計期間中の受注活動によって
2019年度以降の増販トレンドは確定。
更に確度ある受注量の上積みを目指す。

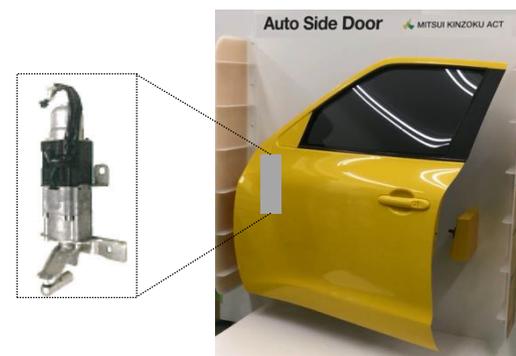
足元の取組み

- 製品の小型化、軽量化の推進
- 展示会出展 (AUTOMOTIVE WORLD 18年1月)
アクト独自の駆動装置「Hinge Center Drive」
を用いたドアシステム提案
- 「オートサイドドア」「オートバックドア」

三井金属アクト生産販売拠点 ●生産販売拠点



- ・日本含め8カ国10拠点に展開
- ・グローバル、サイドドアラッチシェア 約15%



Hinge Center
Drive Unit

展示会出展品
「オートサイドドア」

本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、様々な既存のリスク、未知のリスク、不確定要因等を伴っているため、実際の事業環境・事業活動は、これらによる影響を受けることとなります。したがって、将来の見通しに関する記述内容またはそれによって示唆されている内容が、実際に生じる結果と大きく異なる可能性もあります。

本資料は、将来の見通しに関する記述の中で使用されている目標、想定、期待、予測、計画、評価等の情報が正確である、または将来その通りになるということを、当社が保証したものではありません。

将来の見通しに影響を与うる潜在的リスクや不確定要因については、当社の有価証券報告書またはホームページの「事業等のリスク」の項目に記載されておりますが、潜在的リスクや不確定要因がその項目ですべて網羅されている訳ではありませんので、その旨ご留意ください。

本資料は、株主・投資家等の皆様に、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成しており、当社の株式の購入・売却など、株式等の投資を勧誘することを目的としたものではありません。したがって、皆様が実際に投資なさる際には、本情報に全面的に依拠して判断を下すのではなく、あくまでご自身で投資の可否をご判断くださいますよう、お願いいたします。